

## 令和5年度岐阜県博物館協議会議事要旨

1 日時 令和5年11月30日(木) 14:00~16:00

2 場所 岐阜県博物館 講堂

### 3 出席者

有賀 信彦 (中日新聞社岐阜支社長)  
小野寺 茂樹 (日本放送協会岐阜放送局長)  
春日井 恵子 (岐阜市立鏡島小学校長)  
亀谷 みゆき (朝日大学経営学部・英語教育センター教授)  
河井 洋子 (中部学院大学・中部学院大学短期大学付属桐が丘幼稚園長)  
幸脇 晴美 (公募委員)  
清水 啓子 (岐阜県博物館サポーター)  
須山 知香 (岐阜大学教育学部准教授)  
高木 俊徳 (岐阜新聞社取締役・読者事業局長)  
古川 秀昭 (前岐阜県美術館長)

### 4 開会

- (1) 12名中10名の出席により、本協議会は成立。
- (2) 館長挨拶

### 5 議事要旨

#### (1) 会長挨拶

本日到着時、団体利用の小学生があいさつをしてくれた。県美術館に勤務していたとき、お客様の苦情もあったが、赤ちゃんの泣き声はうるさくない、いいものだと考え、県美準備室では敢えて幼児用の退避室を作らなかった。

今日は、これまでとは違う、活気ある博物館の雰囲気の中で、職員の気持ちが高まるような意見を願います。

#### (2) 県博物館の現状と取組みについて

報告事項：「岐阜県博物館の現状と取組み」(資料1)、「博物館機能の全県展開」(資料1-付図)、「岐阜県博物館の現状と展示データ」(参考)を説明

#### 【質疑】

##### <会長>

前回協議会の指摘事項への対応について報告に感謝。積極的な意見を。

##### <幸脇委員>

公募委員として意見を述べ、それに対して適切な対応が、うれしい。

##### <会長>

現実から遊離志向の美術館と違って、博物館は生活に結び付いたいろいろな活動を行っている。

##### <亀谷委員>

委員にも展覧会案内等が年間を通して丁寧に対応ある。来館者にも丁寧な対応。

昨年度ホームページについて述べたので、ときどき確認しているが、ホームページから学習指導案が見られるなどの工夫が素晴らしい。博物館を使う人への支援がよい。令和7年度に新しい学習指導要領が全面実施となり、学びが新たな段階に移行する。博物館の取り組みがよい方向へつながっている。

<会長>

入館者は増えているのか。コロナ以前を越えているのでは？

<事務局>

現段階ではコロナ以前の水準に回復の兆しがある状況。

### (3) 学校団体と岐阜県博物館について

協議事項：「学校団体と岐阜県博物館」（資料2）、「令和4年度の教育普及活動の概要とデータ」（参考）を説明。

#### 【質疑】

<会長>

マスコミとの関係はどうか。

<事務局>

年間2回の特別展を中日新聞社または岐阜新聞社との共催とし、NHKは後援。取材・報道、学芸員の寄稿連載等で協力。

<有賀委員>

東濃の人は県博の存在を知らない。存在を知ってもらうことが来館者増への一番のステップ。

地域の情報は地域版に掲載されると他地域に拡散されない。新聞社の問題であるが、記事が県内版に掲載されるようになるとよい。

<会長>

地域版か県内版かは大きな違いがある。

<高木委員>

岐阜新聞では県行事は県内版に入れる決まり。

新聞を読まない世代が増えているが、電子版は全地域版が読める。

学校利用はやはり地域に偏りがあり、関心ある教員・学校に偏っている。取り組みが教育現場に伝わっているのか。調査や資料発見等本来の学芸員の仕事を発信して博物館の知名度を上げるべき。発信方法、とくにSNSの写真に要工夫。何をやっているのかわかる写真、1枚でストーリーがわかる写真を。どういう形で発信するかが大事。相互フォローするグループを作り、関心を喚起する。安易なSNS広告は効果がない。視点を変えると発信のしかたが変わる。

満足度が大事。来館者層の属性、どういう形態で来館しているのかを分析するとヒントになる。

<会長>

アンケート調査は行っているのか。

<事務局>

働事ごとにアンケートを取っている。定量的でなく定性的なデータを重視すべきという意見はありがたい。

NHK「まるっと！ぎふ」「みのひだ情報局」で取り上げられると効果が高い。

<小野寺委員>

展示は対象が動かないので、映像に工夫が必要。観た人の心の動きのようなものもあわせると、価値が上がる。いかに心が動く仕掛けを作るかが重要。学校団体で利用した児童が家庭で話題にしてリピーターになるという構造をいかにつくるか。

<会長>

NHK「日曜美術館」の「アートシーン」で数分流れると、県美（岐阜市）の場合、1万人来場増。

<須山委員>

十数年前、博学連携研究の一環で、県博利用について総合アンケート調査を実施。地域の施設として重要な働きを果たしている結果であるが、利用に地域の偏りがある。全県展開の効果で多少改善されている。

学年ごとの発達段階に応じたセルフガイドはきめ細かく対応しているようで、実は、ゲーム感覚（みつけ

で満足)で教育効果が下がるという衝撃の研究成果がある。ワークシートは入口として素晴らしいので、シートが目的にならないよう、展示全体の一環で教育効果をねらう要工夫。よかれと思って作っても思わぬ影響があったりするの、教育学の最新成果にも関心を持って。

<会長>

ワークシートは更新しているのか。

<事務局>

更新している。

<須山委員>

ホームページで予めワークシートを見られると教員が計画を立てやすくよい。

<春日井委員>

利用学校に偏りがあるのは、学校は伝統踏襲だから。一度利用したら継続利用する。新規増を図るには、インパクトがあるか、教員が楽になるか。コロナ禍で鉄道利用や工場見学ができなくなった今がチャンス。学校利用を増やす方法は4/1学級編成時、一年の計画を立てる4月第1週に情報発信すること。とくに何でもありの小学校1・2年生がねらい目。学習内容が絞られる高学年の利用促進には、現行よりターゲットを絞ったワークシート等があるとよい。

学校利用の記事が県内版に掲載されると、地域外の教員が読んで真似しよう、博物館に行こう、となる。一度来館すれば継続利用する。

<事務局>

夏の団体利用説明会は、次年度の利用を見越して実施。

<春日井委員>

2024年問題でバスの調達に困っており、6年度は4月以降も校外学習の変更があり得る。

<幸脇委員>

美濃加茂市はバス利用に市補助がある。関市と県博のコラボがあってよい。岐阜市は1人1台端末の支給が完了しているので、ポケット学芸員のアプリを入れてもらい、学習するとよい。事前に学芸員アプリで学習して、来館すれば、実際の展示を見て、視覚に残る。

<会長>

交通の利便性はどうしようもない。遠方だからこそ、苦勞して来館したことが強烈な印象に残ることもある。

<河井委員>

今秋2回「秋みつけ」で利用。魅力的なメニューがあると利用が増える。どういう活動が提供可能なのか、情報提供が重要。

現在開催中の特別展チラシを幼稚園入口に配架しているが、若い父親に好評。チラシ上部に目立つ情報があると効果的。

<清水委員>

団体利用の活動支援を行うサポーター活動に参加。当日活動より事前事後の準備・片付けがたいへんなので、サポーターを使ってほしい。公園管理者は里山の自然そのままを残す区画を設けてほしい。

大人の体験活動は子どもと反応が違う。大人の満足度が高い、大人を意識したプログラムにも注力して。

<会長>

サポーターの会合はあるのか。

<事務局>

年度初めに、交流を兼ねてサポーター認証式を実施。

<春日井委員>

「秋みつけ」おすすめ場所を教えてほしい。学校向けメニューを利用するのは教員なので、教員の意見を聞いてほしい。数人でよいので取り入れる機会を設けてほしい。

<亀谷委員>

岐阜県の ICT は進んでいるところもあるが、そうでないところもある。実用面で遅れが心配である。つまり、デジタルを使っても一斉授業。個別最適化の学びと共働の学びが、デジタルを使えば両立できることもある。バーチャルにしても、リモートにしても、発達段階や興味関心に応じて個別最適化したデジタルメニューがあるとよい。博物館において「デジタル一斉授業」ではないリモート授業を開発してほしい。

<春日井委員>

「デジタル一斉授業」にせざるを得ないのは資金の問題。生徒用全端末にデジタル教科書をダウンロードできないので、教員用1台を全員で使う。リモート授業のあり方にも教員の意見反映を。

<幸脇委員>

博学連携は美濃加茂市民ミュージアムが先進的。里山に立地する環境も県博と共通する。

<会長>

同館・可児館長は県博物館協会の活動でも、全国的に注目されている。可児館長を講師に招いてもよいかもしれない。

コロナ禍最初のころ、博物館・美術館が一斉休館となって危機感を抱き、コロナ禍中こそ博物館は開館すべき、来館のチャンスと訴えた。

リモート授業でも、個々人の体験や感動を意識したメニューを考えてほしい。

<須山委員>

学校団体利用について、学年に応じたニーズの把握が重要。県博協・博学連携シンポジウムによると、小学生は授業との直結、中学生は教科書の発展、高校生は教科書以上の内容が求められる。サイエンスワールド（瑞浪市）は協議会でアンケート集計結果を詳細に分析し、来館者の動向に応じた対応を行っていた。参考にされるよい。

## 6 令和6年度博物館展覧会計画（案）について

「令和6年度展覧会計画（案）」（資料3）を説明。

**【質疑】**

<幸脇委員>

展覧会の企画は何年先まで計画しているのか。

<事務局>

事業によって異なる。

<会長>

教育委員会から知事部局に所管変えして、どこの局になったのか。

<事務局>

県民文化局である。

<会長>

局長をこの会議に呼んではどうか。

<事務局>

所管の文化伝承課長が出席している。

<会長>

博物館の取り組みに予算をつけてあげてほしい。

## 7 副館長挨拶

## 8 閉会